

[ 採集案内 No.1 ]

大阪市立自然科学博物館

# 初夏の比良山

琵琶湖の面岸に美しい姿をよこたえている比良山は、どんな山だろうか。どんな生物がすみ、どんな自然が展開されているか。そこのネイチャー・スタディの手引としてこのパンフレットを作った。

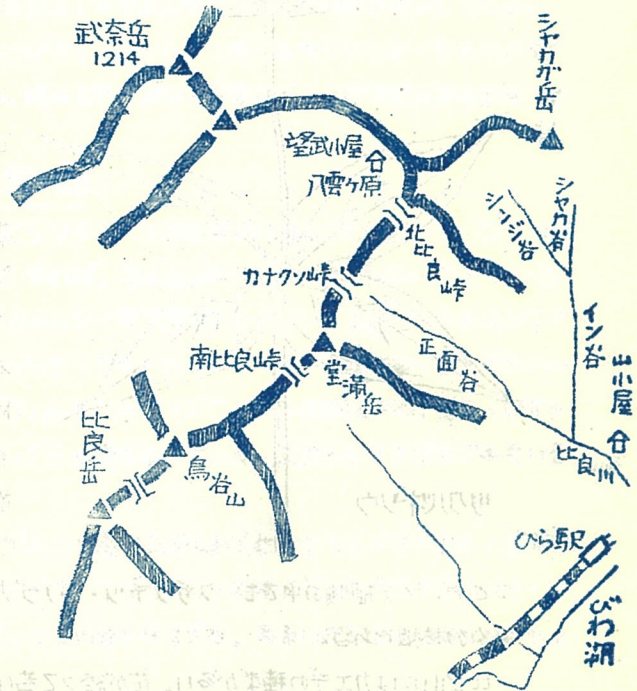
## [ 地形及び地質 ]

比良山系は武奈ヶ岳(1214 m)、蓬来山(1174 m)等1000 m以上の山々が山頂を殆んど同じくしてほぼ東面につらなっているテーブル状の山塊で、頂上には平坦な所が多く、隆起準平原をつくっている。いわゆる“中国大準平原”の東端をなすもので、西側の丹波高原とは京都市より北北東に走るまっすぐな岩をつくる花断断層で境され、東側は急傾斜で琵琶湖にのぞんでいる。この地形は才三紀につくられたものである。

比良山系をつくる岩石は、山口型の秩父古生層と、中口式の花崗岩類である。この両者は山頂部で接している。

山系の面半部は秩父古生層からなり、頁岩・粘板岩・砂岩・チャート等である。頁岩・粘板岩は黒色～暗灰色であるが、風化すれば黄褐色になる。砂岩は暗灰色で粒度は一定してはいない。黒色頁岩の破片が散在していることがしばしばある。チャートは灰色～暗灰色のことが多いが、赤色のことも暗緑灰色のこともあり、いづれの場合でも大川の石英の白い細脈を含んでいる。このチャートにともなってマンガン鉄床があることがある。武奈ヶ岳の頂上はこの古生層中にある。

東端部は花崗岩類よりなり、風化がはげしく、ボロボロにくたけているので、すべてに登りにくい。所々に小さな放射能鉱物を含んでいる。蓬来山の頂上はこの花崗岩中にある。

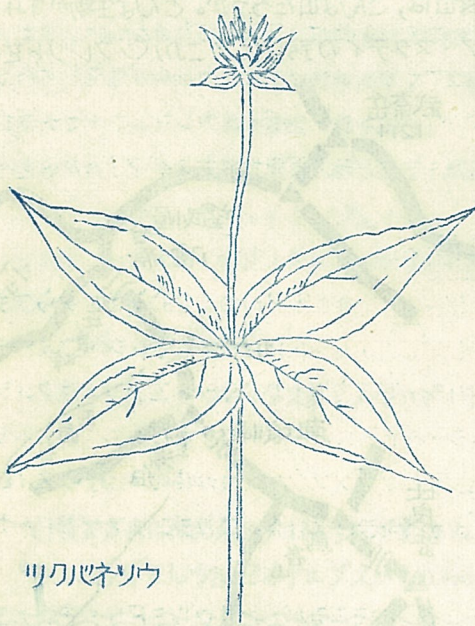




## [ 植 物 ]

東側山麓の イン岩・大山口・神原方面の植物は、近畿地帯一般と共通種が多く、カシ・ツバキなどの暖地性植物も見られるが、特記するものとしては、猛毒植物として有名なドクウツギ位である。標高 1000m 近くになると、ドウダンツツジ・ペニドウドン・サラサドウダン等は今が満開の季節で、近畿地方では稀に見られる美しいながめである。北比良は有名なシヤクナゲの名所であるが、花期は過ぎて、前記ドウダンツツジと共にゴヨウツツジの麻花もこのごろである。

頂上近くの八雲ヶ原はミズゴケがよく生えた高山草原で、ヤマドリゼンマイの群生する所に、モウセンゴケ・シカクイ・サワオトギリ・ヒメシロネ・ヌマトラノオ・ミソハギ・オニスゲ・マツバスケ・アブラガヤなどが多い。これは酸性を好む植物が栄える一面、酸性に弱い多くの植物は稀少となり、あるいは生育不良になつてゐるのは興味あるながめである。



ツクビネソウ

武奈岳は 1214m で、頂上付近は森林が少く、草原の面にアカモリが目立つ程度であるが、望武小屋・八雲ヶ原付近には、落葉広葉樹林がよく発達して、ブナ・イヌブナ・ミズナラ・コミネカエデ・オオイタヤメイゲツ・ナナカマド・フウリンウメモドキ・キンキマメザクラ・ツリハシバミの他、ハイイヌギヤ・モミ・ツガ・アカマツ・アスナロ等の針葉樹や、イワウチワ・オオイワカガミ・エンレイソウ・ツクビネ・ミヤマシラスゲ などの草本の多い

ことや、シダ植物の中にも クサソテツ・シノブカグマ・ヤマソテツ・オンダなどの多い温帯森林特有の林相である。

比良山にはカエデの種類が多い。花が終つて若い果実がみのりかけている。風で散つてゆくモミジのタネは、やがたく云えば果実で、ハネは子房壁の発達したものであることも、このごろのものをみるとよくわかる。葉の形も切込みのないサクラの葉のようなものから三つくらいに浅く切れたもの、大きくてマツデの葉のような形のものなどいろいろある。果実のつき方（たくさん果実が長い房になつてぶらさがるもの、数個むらがつてつくものなど）、葉の面や柄の毛の配りなどが種類をみわける着眼点である。ハウチワカエデ・オオイタヤメイゲツ・オオモミジ・イタヤカエデ・テツカエデ・ヤマシバカエデ（チドリノキ）、ウリカエデ（メウリノキ）、ウリハダカエデ、アサリハカエデ・コミネカエデなどがみられる。



## [ 昆虫 ]

### 1. 湖岸～山の家

このコースは夕方に居るが、花を訪れるスズメガの類や、小昆虫を追つてとんでいるトンボなどに注意しよう。珍品メガネサナエがとれるかもしれない。道の牛糞にはオオフタホシマダコガネがいる。山の夜では灯に来るものを丹念に集めよう。又、早朝街灯の下をさがすと、いろいろなガが残っているのが見つかる。ここではタイワンキシタヤガも採れている。

### 2. 山の家～大山口(比良川正面岩)

溪流に沿った道なので、時々川原におりて石ころを転し、ミズゴウゴミムシやメダカハネカワシ・スナゴミダマシを探るのも面白い。水のしぶきにぬれた石面には、ミズゴウカナムシや、アミカ(ヒメアミカ・オオバアミカ・トゲナシアミカ)やブユ(ニツボンヤマブユ)の幼虫が生きている。

道に日が射すと、溪流性の初夏のトンボがとびかう。ムカシトンボ・ムカシヤンマ・ヒメクロサナエ・サナエモドキ・ダビドサナエなどである。時々ミヤマカラス春型やオオスズメガが水を嗜むにおりてくる。

### 3. 大山口～北比良峠の斜面

大山口ではヨコヤマトラカミキリ・ハナセヒラク4ハバヤガとれどいる。このあたりからブナ・クリなどが多くなってくるので、叩き網採集をすれば、カメムシやハムシ・ゾウムシ・コメツクムシが沢山あちてくる。トゲカメムシ・エゾアカカメムシ・セアカツリカメムシ・エゾツノカトムシ；アカガネサレハムシ・ワモンナガハムシ・ルリハムシ・クワムシ・ドジョウキハムシ・アトボシハムシ・ドウガネツバハムシ；カシワク4ゴトゾウムシやヒゲボソゾウムシの仲間である。ウスイロオトシブミ・ヒメクロオトシブミ・カシレリオトシブミが葉をまいている。スカシリアゲモドキもいる。

### 4. 八雲ヶ原～武奈岳

ミズナラなどが多いため、ここはミドリシジミの多産地であるが(ヒサマツミドリ・アイノミドリ・フジミドリ・メスアカミドリ・ジヨウザンミドリ・エゾミドリ・オオミドリやウラクロシジミ・ウスイロオナガシジミ・ウラキンシジミなど)、少し時期が早すぎる。あるいは新鮮な個体が少しとれるかもしれない。

湿原のスクーピングではイトトンボなどに注意しよう。

望武小屋附近にはハネビロハバヤガがあり、人糞にはミヤマダイコクコガネ・オオセンチコガネ・クロオビマダコガネなどがいる。小屋の灯にはトビモンシヤチホコガネが未記録がある。

いろいろな花にはトゲヒラタハナムグリやアオルナムグリ・オオトラフコガネが集る。

武奈岳頂上の草原では上昇気流によっていろいろなクオウや甲虫がやってくる。

以上の外、ルリクワガタヤウスバシロクオウキも自標とすべき種類である。又、カエデの花には、ハリウスハナ・アカイロニセハムシハナ・ピツクニセハムシハナ・キバネニセハムシハナ等のハナカミキリやルイスクビナガハムシ・イツボシヒラタコメツキ・フタキボシカネコメツキなど珍しい甲虫



が採集できる。

### [ 魚 ]

溪流にはイワナ・ヤマメがおよびでいる。

### [ 両 棲 類 ]

八雲ヶ原の湿原にはモリアオガエルが沢山すんでいる。きれいなみどり色をしており、樹の梢に卵塊をうみつける変わった習性で有名なカエルである。

比良川の溪流には、ハコネサンショウウオ・ブナサンショウウオの子供がみつかるといわれる。

### [ 鳥 ]

この山には日本産のホトトギス科の鳥4種がすべてすんでいる。なまこえは次の通りである。

ホトトギス——「テッペンカケタカ」「特許許可局」

カッコウ ——「カッコウ・カッコウ」

ツツドリ ——「ポンポン ポンポン ポンポンポンポン」と筒をたたくような音

ジュウイチ ——「ジュウイチ ジュウイチ」

その他 ウグイス・キジ・ヤマドリもすんでおり、武奈岳頂上には印象的なアマツバメの姿が見られる。

### [ け も の ]

ニホンザル・キツネ・タヌキ・ノウサギ・シカ・イノシシ・ツキノワグマもすんでいる。

### [ く も ]

山麓で8月に南条系のゲボウグモがとれている。おそらく比良が分布の北限になるものであろう。キンヨウグモは今回日本アルプスからのみ知られていたが、武奈岳山麓でとれた。

## おすすめ

## 大阪市立自然科学博物館 後援会

に入会して、一諸に自然を研究しましょう。

会費は「NATURE STUDY」が配付

されます。会費は年額300円。

お申込みは博物館内へ。

